

【ロゴの紹介】

青色は「学び」、黄色は「活動」、森や自然を想起する緑色は「持続可能な社会」を象徴しています。ESDの文字で卵から雛が生まれる様子を表現し、青色と黄色を混ぜると緑色が生じるという「色の原理」も織り込んで、「人びとの学びと活動によって持続可能な社会を生み出し、育てる」というESDの考え方を表しています。

*上記「ESDロゴマーク」は、環境大臣によって商標登録されています。

2023(令和5)年度環境省請負業務

持続可能な地域づくりと人づくりを推進する ESD活動支援センター 2023年度 活動レポート

発行日 2024(令和6)年3月 制 作 ESD活動支援センター





持続可能な地域づくりと人づくりを推進する ESD活動支援センター

2023年度 活動レポート



ESDはEducation for Sustainable Development の頭文字。 持続可能な開発のための教育と訳され 全国各地の学校で、地域で、取り組まれています。 ESDはSDGs (持続可能な開発目標)達成に向けての人づくりです。



2023年度の活動を振り返って

本報告書は、ESD活動支援センターの2023年度の活動記録を取りまとめたものです。昨年5月 の新型コロナウイルスの5類感染症移行に伴い、社会活動は少しずつ以前の姿を取り戻しつつあり ます。しかしながら国際社会では、政治・軍事情勢の更なる不安定化が進行する一方、喫緊の課題 である気候変動対策についても目覚ましい進展がみられていません。このような予測することが難 しい社会を生き抜く力を身につけるために、ESDの果たす役割はますます高まっているといえるで しょう。今年度の取組や動向の主なポイントは以下のとおりです。

●「気候変動を切り口としたESDIの推進

ESD活動支援センターでは、昨年度[ESD・気候変動教育の推進について]と題するコンセプトペー パーを作成し、気候変動問題に重点的に取り組む方針を打ち出しました。各地方ESD活動支援センター (地方センター)が実施する[ESD for 2030学びあいプロジェクト]では、それぞれのセンターが気候 変動と地域の課題を関連づけ、多様な主体が協働で取り組む活動を企画・実施しています。

●全国ネットワーク団体との連携強化

全国的なネットワークを有し多様な分野で活動する団体が一堂に会し、各団体の取組について情報交 換するとともに団体同士の連携を深める機会として、昨年度に引き続き意見交換会を開催しました。今年 度は気候変動への取組を強化する方針を踏まえ、全国地球温暖化防止活動推進センターとの共催とし、 各団体におけるESD・気候変動教育の実践事例の共有のほか社会の変容に向けた取組のあり方につい て活発な意見交換が行われました。また、12月に開催されたESD全国フォーラムにおいても全国ネット ワーク団体が午後のセッションで活動を紹介する3分アピールとポスター出展を行い、参加者と交流を深 めました。

●ESD・気候変動教育実践主体へのヒアリング

各地域におけるESD・気候変動教育実践状況の可視化(=地域の「宝」の掘り起こし)と優良事例の横展 開を目的として、各地で活動する団体へのヒアリングを実施しました。8つの地方センターから推薦され たNPO、公益法人、小学校、大学、企業等多様な団体に、活動を始めたきっかけや現在の状況、成果と課 題、今後の方向性などについて話を伺いました。

| 目 次 | ESD活動支援センター(全国センター)の役割・・・・・・・8 |
|----------------------------------|---------------------------------------|
| 2023年度の活動を振り返って・・・・・・・2 | ESD推進ネットワーク全国フォーラム2023 ······10 |
| ESD推進ネットワーク形成の進展・・・・・・・3 | ESD for 2030学びあいプロジェクト · · · · · · 13 |
| SDGs達成を目指すESD推進ネットワーク ・・・・・・・・ 4 | 地域ESD推進拠点年次アンケート結果 ·····14 |
| 地域ESD活動推進拠点 · · · · · · 6 | ESD活動支援センター(全国・地方)連絡先 ・・・・・・15 |

本レポートの表記・内容について:原則2024年2月末時点の情報に基づいています。/ 肩書きはイベント等開催当時のものです。/ 「特定非営利活動 法人」は「NPO法人」または「NPO」と略記しています。/円グラフの%の合計が数値の処理上100にならない場合があります。

ESD推進ネットワーク形成の進展

2030

ESD fc **2020**

for

(GAP)

) **7** ⊆

アクション

ジジ

ESD(C)

20. 091

Ú 国連E 200!

目標(SDGs)

持続可能な開発

2030

Ń

201

2015年9月

「国連持続

可能な開発

サミット」で

正式発効

採択 2016年1月

地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)、全国8か所の地方ESD活動支援センター(地方 センター)、ESD活動支援センター(全国センター)の連携・協力によるESD推進ネットワーク の体制の基盤整備が大きく進展しています。

2021 (令和3)年 5月

第2期ESD国内実施計画策定。ネットワーク・情報発信の強化が重点実施領域として 位置づけられる。



2019(令和元)年12月

GAP後継枠組みである「持続可能な開発のための教育:SDGs実現に向けて (ESD for 2030) |国連総会で採択。

2020(令和2)年 1月

ESD活動支援センターによる「ESD推進ネットワークの成果概要(2016-2019)| 取りまとめ。



2017(平成29)年 11月

ESD推進ネットワークの「地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)」の登録開始。



2017(平成29)年 7月~9月

ESD推進ネットワークの広域的なハブとしての機能を担う「地方ESD活動支援センター (地方センター)」が、文部科学省と環境省により、全国8ブロックごとに開設される。



2016(平成28)年 4月

ESD推進ネットワークの全国的なハブとして「ESD活動支援センター(全国センター)」が、 文部科学省と環境省により、開設される。



2016(平成28)年 3月

「我が国における『持続可能な開発のための教育(ESD)に関するグローバル・アク ション・プログラム』実施計画(ESD国内実施計画)」(*持続可能な開発のための教育 に関する関係省庁連絡会議決定)に全国的なESD支援のためのネットワーク機能の 体制整備と「ESD活動支援センター(全国・地方)」の整備・効果的な運用が、政策的 支援と地域コミュニティ関連の柱として記載される。



2005(平成17)年~2014(平成26)年

「国連ESDの10年」、日本を含む世界各国で展開。

2014(平成26)年11月ESDに関するユネスコ世界会議(愛知県名古屋市で開催)で、 「国連ESDの10年」の後継プログラムである「ESDに関するグローバル・アクション・ プログラム(GAP)」の正式開始が発表される。

2002年12月の国連総会での決議に基づき2005年から実施

*持続可能な開発のための教育に関する関係省庁連絡会議:ESDにかかわる施策の実施について、関係行政機関相互間の密接な連携を図り、総合的かつ効果的な推進を図るた めに開催。2022年2月時点で、12省庁が参画・文部科学省、環境省、内閣官房、内閣府、消費者庁、総務省、外務省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、法務省、厚生労働省。

SDGs達成を目指す ESD推進ネットワーク

ESD推進ネットワークは、持続可能な社会の実現に向け、ESDに関わる多様な主体が、分野横断的に、協働・連携してESDを推進することを目的としています。

ESDを広げ、深めることを通じて、地域の諸課題の解決と教育の質の向上、SDGs達成に向けての人づくりを行います。

● 地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)

地方センターのパートナーとして、他の地域ESD拠点とも連携し、各地域・各分野で取り組まれるESDを様々な形で支援することでESD推進ネットワークの中で中核的な役割を果たす、地域におけるESD活動の支援窓口です。

先導的、波及効果の高いESD活動を実践している組織・団体や、ESD活動を支援している組織・団体に地域ESD拠点として登録していただき、学校教育や社会教育の現場で、地域や社会の課題解決に関する学びや活動に取り組む様々な主体の活動を支援・推進していただくことが期待されています。

● 地方ESD活動支援センター(地方センター)

全国8ブロックに開設され、全国センターや地方自治体、地域ESD拠点等との連携の下に、主に以下の機能を果たすことで、ESD推進ネットワークの広域的なハブ機能を果たします。

- ①ESD活動を支援する情報共有機能
- ②現場のニーズを反映したESD活動の支援機能
- ③ESD活動のネットワーク形成機能
- ④人材育成機能、等

各地方センターには指導・助言機関が設けられています。

● ESD活動支援センター(全国センター)

ESD推進ネットワークの全国的なハブとなり、ESD活動の支援を行います。ESD推進ネットワーク全体の活動の基本的方向を議論するESD活動支援企画運営委員会の指導・助言を受けて、地域ESD拠点、地方センターやESDの推進に関心を持つ全国の協力団体と協働・連携し、支援活動を展開します。

● 協力団体

ESD推進に取り組む全国規模のネットワーク組織・団体です。



(=)





2 飢餓を ゼロに



















16 平和と公正を すべての人に







学校、地域、 職場などで ESDに取り組んで いる多様な実践主体

(ESD活 動の現場)

ESDに取り組もうと している多様な主体 (潜在的な 活動主体)

ニーズ・成果共有

ESDを広めるた<mark>め</mark>、深め るための働きかけ・支援

多数・多様・ 重層的な

地域ESD活 動推進拠点

(地域ESD 拠点)

ニーズ・成果共有

ESD活動 支援センター

地方センター (全国8か所)+ 全国 センター

協力 団体



●SDGs:持続可能な開発目標

2015年9月、「国連持続可能な開発サミット」において、「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。この中で、発展途上国・先進国が共に取り組む2016年から2030年までの国際的な目標として、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標(SDGs)」が示されています。

●SDGsとESD

SDGsの目標4(教育)の第7項目には、ESD等を通じて全ての学習者が持続可能な開発の促進に必要な知識とスキルを習得できるようにするという目標が書かれています。

一方、「ESDは全てのSDGsの実現の鍵である」と2017年の国連 決議に記されたように、ESDは、持続可能な社会づくりの担い手 の育成を通じ、SDGs達成のための意識・行動の変容をもたらす 学びとして、SDGsの17の全ての目標の達成に貢献するものとさ れています。



図は「今日よりいいアースへの学び 持続可能な開発のための教育(ESD)の更なる推進に向けて~学校等でESDを実践されている皆様へ~」(2017(平成29)年9月、日本ユネスコ国内委員会教育小委員会)から作成しました。

5



地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)

津山圏域クリーンセンターリサイクルプラザ

公益財団法人 水島地域環境再生財団

地域・社会の課題解決に関する学びや活動に取り組んでいる学校や社会教育現場の様々な主体に対して地域における ESD活動の支援窓口としての役割を担っていただく地域 ESD拠点の登録を、ESD活動を実践・推進・支援している組織・団体の協力を得て、進めています。

佐賀県

福岡県

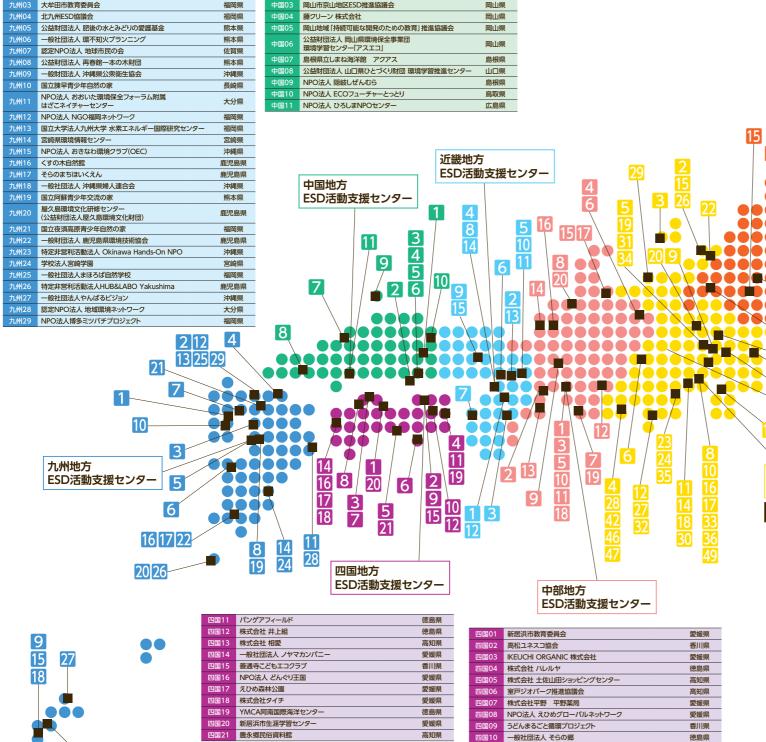
鹿島市 建設環境部 ラムサール条約推進室

九州02 国立大学法人 福岡教育大学

登録は、2017年11月に開始され、2024年2月末現在、教育委員会、社会教育機関、学術研究機関、企業、NGO/NPO、公益法人等多様なセクターから全ての都道府県で合計187団体が登録されています。

岡山県

岡山県



| | 6 16 | | | |
|--|-----------------|--|---|---|
| | 10 4 | ** | B | |
| | | | 7 2 | |
| 北海道地方 ESD活動支援t | 779- | | | |
| 20 21 | | | | |
| | 18 | | | |
| 8 | ••••• | - | (1) | |
| | | | | |
| 5 | | | | |
| 117 | | | | |
| 18 19 | 17 19 | | | |
| 21 | | | 3 \ 9 | |
| | TE I | 14 | 12 | |
| | | | | |
| | •••• | | | |
| 8 | 3 | 関東35 | かわさき環境教育学習プロジェクト | 神奈川県 |
| | | 関東36 | 渋谷川ルネッサンス 一般社団法人 社会デザイン協会 | 東京都栃木県 |
| 00000 | | 関東38 | BEK Lab(べくらぼ) | 茨城県 |
| | | 関東39 | 一般社団法人里山こらぼ | 埼玉県 |
| | | 関東40 関東41 | 学校法人アジア学院 那須高原自然学校 | 栃木県 |
| | 4 6 16 20 | 関東42 | が次向原日が子校 静岡県三ケ日青年の家 | 静岡県 |
| | | 関東43 | ち〜ば国際教育ネットワーク(CINE) | 千葉県 |
| | 東北地方 | 関東44 | 流山防災まちづくりプロジェクト | 千葉県 |
| | ESD活動支援センター | 関東45 関東46 | 一般社団法人銀座環境会議 浜松開誠館中学校・高等学校 | 千葉県 |
| | 10 | 関東47 | 有限会社SHIPMAN | 静岡県 |
| | 12 | 関東48 | NPO法人コミュネット流山 | 千葉県 |
| THE STATE OF THE S | 7W | 関東49 | 公益財団法人古紙再生促進センター | 東京都 |
| 9 5 6 | | 中部01 | 一般社団法人 日本体験学習研究所 一般社団法人 ネクストステップ研究会 | 愛知県 三重県 |
| 25 37 40 | 0 41 | 中部03 | 名古屋ユネスコ協会 | 愛知県 |
| | | 中部04 | 一般社団法人 長野県環境保全協会 | 長野県 |
| 21 1 | <mark>38</mark> | 中部05 | 「なごや環境大学」実行委員会 信州ESDコンソーシアム | 愛知県 長野県 |
| 7 39 | | 中部07 | 豊橋ユネスコ協会 | 愛知県 |
| | | 中部08 | 石川県ユネスコ協会 | 石川県 |
| 13 43 44 45 | 48 | | 岐阜県ユネスコ協会 | 岐阜県 |
| | | | 中部ESD拠点(国連大学認定RCE Chubu) NPO法人 地域の未来・志援センター | 愛知県 愛知県 |
| \ | | | | |
| | | 中部12 | 根羽村森林組合 | 長野県 |
| 関東地方 | | 中部13 | NPO法人 大杉谷自然学校 | 長野県 三重県 |
| 関東地方 ESD活動支援 | 慢センター | 中部13 中部14 | NPO法人 大杉谷自然学校 NPO法人 エコプランふくい | 長野県 三重県 福井県 |
| ESD活動支援 | | 中部13 | NPO法人 大杉谷自然学校 | 長野県 三重県 |
| | | 中部13 中部14 中部15 | NPO法人 大杉谷自然学校 NPO法人 エコプランふくい 一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま(PECとやま) | 長野県 三重県 福井県 富山県 |
| ESD活動支援 | | 中部13 中部14 中部15 中部16 中部17 | NPO法人 大杉谷自然学校 NPO法人 エコプランふくい 一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま(PECとやま) 勝山市 富山ユネスコ協会 一般社団法人 グローバル愛知 | 長野県 三重県 福井県 富山県 福井県 富山県 電井県 富山県 第山県 愛知県 |
| ESD活動支援 | | 中部13 中部14 中部15 中部16 中部17 中部18 | NPO法人 大杉谷自然学校 NPO法人 エコプランふくい 一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま(PECとやま) 勝山市 富山ユネスコ協会 一般社団法人 グローバル愛知 加山興業株式会社 | 長野県 三重県 福井県 富山県 福井県 富山県 愛知県 |
| ESD活動支援 | | 中部13 中部14 中部15 中部16 中部17 中部18 中部19 | NPO法人 大杉谷自然学校 NPO法人 エコプランふくい 一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま(PECとやま) 勝山市 富山ユネスコ協会 一般社団法人 グローバル愛知 | 長野県 三重県 福井県 富山県 福井県 富山県 電井県 富山県 第山県 愛知県 |
| ESD活動支援 | | 中部13 中部14 中部15 中部16 中部17 中部18 中部19 中部20 近畿01 | NPO法人 大杉谷自然学校 NPO法人 エコプランふくい 一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま(PECとやま) 勝山市 富山ユネスコ協会 一般社団法人 グローバル愛知 加山興業株式会社 ななおSDGsスイッチ 近畿ESDコンソーシアム 公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会 | 長野県 三重県 福井県 富山県 福井県 富山県 愛知県 石川県 奈良県 京都府 |
| ESD活動支援 | | 中部13 中部14 中部15 中部16 中部17 中部18 中部19 中部20 近畿01 近畿02 | NPO法人大杉谷自然学校 NPO法人 エコプランふくい 一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま(PECとやま) 勝山市 富山ユネスコ協会 一般社団法人 グローバル要知 加山興業株式会社 なおおりのらスイッチ 近畿ESDコンソーシアム 公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会 森と水の源流館(公益財団法人 吉野川紀の川源流物語) | 長野県 三重県 福井県 富山県 富山県 愛知川県 受知川県 奈郎府 奈良県 |
| ESD活動支援 | | 中部13 中部14 中部15 中部16 中部17 中部18 中部19 中部20 近畿01 近畿02 近畿03 | NPO法人 大杉谷自然学校 NPO法人 エコプランふくい 一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま(PECとやま) 勝山市 富山ユネスコ協会 一般社団法人 グローバル要知 加山興業株式会社 ななおSDGsスイッチ 近畿ESDコンソーシアム 公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会 森と水の源流館(公益財団法人 吉野川紀の川源流物語) NPO法人 大阪環境カウンセラー協会 | 長野県 三重井県 富山県 福井県 富山知県県 愛知川県 奈都県 元前良府 奈良府 |
| ESD活動支援 | | 中部13 中部14 中部15 中部16 中部17 中部18 中部19 中部20 近畿01 近畿02 | NPO法人大杉谷自然学校 NPO法人 エコプランふくい 一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま(PECとやま) 勝山市 富山ユネスコ協会 一般社団法人 グローバル要知 加山興業株式会社 なおおりのらスイッチ 近畿ESDコンソーシアム 公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会 森と水の源流館(公益財団法人 吉野川紀の川源流物語) | 長野県 三重県 福井県 富山県 富山県 愛知川県 受知川県 奈郎府 奈良県 |
| ESD活動支援 | | 中部13 中部14 中部15 中部16 中部17 中部18 中部19 中部20 近畿01 近畿02 近畿03 近畿03 近畿04 | NPO法人大杉谷自然学校 NPO法人 エコプランふくい 一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま(PECとやま) 勝山市 富山ユネスコ協会 一般社団法人 グローバル愛知 加山興業株式会社 なおおSDGsスイッチ 近畿ESDコンソーシアム 公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会 森と水の源流館(公益財団法人 吉野川紀の川源流物語) NPO法人 大阪環境カウンセラー協会 公益財団法人 淡海環境保全財団 質面ユネスコ協会 花王エコラボミュージアム | 長野県 三重井県 富山井県 富川県県 愛知川県 愛知川県県 奈奈良県 大阪賀県 |
| ESD活動支援 | | 中部13 中部14 中部15 中部16 中部17 中部18 中部19 中部20 近畿01 近畿02 近畿03 近畿04 近畿05 | NPO法人大杉谷自然学校 NPO法人 エコプランふくい 一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま(PECとやま) 勝山市 富山ユネスコ協会 一般社団法人 グローバル要知 加山興業株式会社 なおおDGsスイッチ 近畿ESDコンソーシアム 公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会 森と水の源流館(公益財団法人 吉野川紀の川源流物語) NPO法人 大阪環境アウンセラー協会 公益財団法人 淡海環境保全財団 | 長野県 三重井県県 福山川県県県県県県県県県県県県県県県県県県県県県県県県県県県県県県県県県県 |
| ESD活動支援 | | 中部13 中部14 中部15 中部16 中部17 中部20 近畿01 近畿02 近畿03 近畿04 近畿05 近畿07 | NPO法人大杉谷自然学校 NPO法人 エコプランふくい 一般社団法人 環境市民ブラットフォームとやま(PECとやま) 勝山市 富山ユネスコ協会 一般社団法人 グローバル要知 加山興業株式会社 なおおりのまる。 なおいるのでは、京都市環境保全活動推進協会 森と水の憲宗館(公益財団法人 吉野川紀の川源流物語) NPO法人 大阪環境カウンセラー協会 公益財団法人 淡海環境保全財団 質面ユネスコ協会 花王コラボミュージアム 異林水産省 林野庁 近畿中国森林管理局 森林整備部 買面森林かれるい推進センター NPO法人 バイオマス丹波様山 | 長野県 三重井県県 福山山県県 愛知川県県 奈奈皮阪賀阪町県 大阪町県府 大阪町県 大阪町県 大阪町県 大阪町県 大阪町県 大阪町県 大阪町県 大阪町県 |
| ESD活動支援 | | 中部13 中部14 中部15 中部16 中部19 中部20 近畿01 近畿02 近畿03 近畿04 近畿05 近畿05 近畿06 近畿07 | NPO法人大杉谷自然学校 NPO法人 エコプランふくい 一般社団法人 環境市民ブラットフォームとやま(PECとやま) 勝山市 富山ユネスコ協会 一般社団法人 グローバル愛知 加山興業株式会社 なおおSDGsスイッチ 近畿ESDコンソーシアム 公益利団法人 京都市環境保全活動推進協会 森と水の源流館(公益財団法人 吉野川紀の川源流物語) NPO法人 大阪環境カウンセラー協会 公益財団法人 淡海環境保全財団 質面ユネスコ協会 花王エコラボミュージアム 農林水産省 林野庁 近畿中国森林管理局 森林整備部 買面森林かれるい搭進センター NPO法人 バイオマス丹波藤山 NPO法人 例のまちエコ倶楽部(あいとうエコプラザ菜の花館) | 長野県 三番 中華 |
| ESD活動支援 | | 中部13 中部14 中部15 中部16 中部17 中部20 近畿01 近畿02 近畿03 近畿04 近畿05 近畿07 | NPO法人大杉谷自然学校 NPO法人 エコプランふくい 一般社団法人 環境市民ブラットフォームとやま(PECとやま) 勝山市 富山ユネスコ協会 一般社団法人 グローバル要知 加山興業株式会社 なおおりのまる。 なおいるのでは、京都市環境保全活動推進協会 森と水の憲宗館(公益財団法人 吉野川紀の川源流物語) NPO法人 大阪環境カウンセラー協会 公益財団法人 淡海環境保全財団 質面ユネスコ協会 花王コラボミュージアム 異林水産省 林野庁 近畿中国森林管理局 森林整備部 買面森林かれるい推進センター NPO法人 バイオマス丹波様山 | 長野県 三重井県 富井県県 福富山県県 愛知川県県 京奈良阪賀阪川県 大阪賀阪町県 大阪町県 大阪町県 大阪町県 大阪町県 大阪町県 大阪町県 |
| ESD活動支援 | | 中部13 中部14 中部15 中部16 中部19 中部20 近畿01 近畿02 近畿03 近畿05 近畿05 近畿05 近畿05 近畿07 近畿08 | NPO法人大杉谷自然学校 NPO法人 エコプランふくい 一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま(PECとやま) 勝山市 富山ユネスコ協会 一般社団法人 グローバル愛知 加山興業株式会社 ななおSDGsスイッチ 近畿ESDコンソーシアム 公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会 森と水の源流館(公益財団法人 吉野川紀の川源流物語) NPO法人 大阪環境カウンセラー協会 公益財団法人 淡海環境保全財団 質面ユネスコ協会 花王エコラボミュージアム 農林水産省 林野庁 近畿中国森林管理局 森林整備部 質面森林ふれあい推進センター NPO法人 パイオマス丹波様山 NPO法人 愛のまちエコ倶楽部(あいとうエコブラザ菜の花館) やまえこ(山内エコクラブ) | 長野県 三連井県 電子 三連 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 |

| 北海道01 | 北海道教育大学釧路校ESD推進センター | 北海道(道東 |
|----------------|---|------------------|
| 北海道02 | 羅臼町教育委員会 | 北海道(道東 |
| 北海道03 | 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立大雪青少年交流の家 | 北海道(道北 |
| 北海道04 | NPO法人 旭川NPOサポートセンター | 北海道(道北 |
| 北海道05 | 一般財団法人 北海道国際交流センター(HIF) | 北海道(道南 |
| 北海道06 | 北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル深川 | 北海道(道央 |
| 北海道07 北海道08 | 北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル北見 北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル森 | 北海道(道東北海道(道南 |
| 北海道09 | 北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル厚岸 | 北海道(道東 |
| 北海道10 | 北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル砂川 | 北海道(道央 |
| 北海道11 | 三笠ジオパーク推進協議会 | 北海道(道央 |
| 北海道12 | 北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル足寄 | 北海道(道東 |
| 北海道13 | 白滝ジオパーク 独立行政法人国立青少年教育振興機構 | 北海道(道東 |
| 北海道14 | 国立日高青少年自然の家 | 北海道(道央 |
| 北海道15 | 認定NPO法人霧多布湿原ナショナルトラスト | 北海道(道東 |
| 北海道16 北海道17 | 認定NPO法人 サロベッ・エコ・ネットワーク NPO法人 登別自然活動支援組織モモンガくらぶ | 北海道(道北 北海道(道央 |
| 北海道18 | NPO法人 北海道エコビレッジ推進プロジェクト | 北海道(道央 |
| 北海道19 | 株式会社アレフ えこりん村事業部 | 北海道(道央 |
| 北海道20 | 特定非営利活動法人さっぽろ自由学校「遊」 | 北海道(道央 |
| 北海道21 | 合同会社エゾリンク | 北海道(道央 |
| 東北01 東北02 | NPO法人 青森県環境パートナーシップセンター 一般社団法人 あきた地球環境会議(CEEA) | 青森県 秋田県 |
| 東北03 | NPO法人 環境パートナーシップいわて | 岩手県 |
| 東北04 | 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON) | 宮城県 |
| 東北05 | 独立行政法人 国立高等専門学校機構 福島工業高等専門学校 | 福島県 |
| 東北06 | 公益社団法人 仙台ユネスコ協会 | 宮城県 |
| 東北07 | NPO法人 うつくしまNPOネットワーク | 福島県 |
| 東北08 | NPO法人 環境ネットやまがた | 山形県 |
| 東北09 | 只見町教育委員会 | 福島県 |
| 東北10 東北11 | 気仙沼ESD/RCE推進委員会 会津ユネスコ協会 | 宮城県 福島県 |
| 東北12 | いわきユネスコ協会 | 福島県 |
| 東北13 | 八戸工大二高・附属中学校 | 青森県 |
| 東北14 | 認定NPO法人 環境あきた県民フォーラム | 秋田県 |
| 東北15 東北16 | 国立那須甲子青少年自然の家一般社団法人日本キリバス協会 | 福島県 宮城県 |
| 東北17 | 青森市教育委員会 | 青森県 |
| 東北18 | 青森市立千刈小学校 | 青森県 |
| 東北19 | 青森市立堤小学校 | 青森県 |
| 東北20 東北21 | りーふ26(特定非営利活動法人 LEAF26) 青森大学 | 宮城県 |
| 関東01 | 認定NPO法人 茨城NPOセンター・コモンズ | 茨城県 |
| 関東02 | 学校法人 日本自然環境専門学校 | 新潟県 |
| 関東03 | 公益財団法人 鼓童文化財団 | 新潟県 |
| 関東04 | NPO法人 アースライフネットワーク | 静岡県 |
| 関東05 | チャウス自然体験学校(NPO法人 チャウス) 公益財団法人 キープ協会 | 群馬県 山梨県 |
| 関東07 | 筑波大学附属坂戸高等学校 | 埼玉県 |
| 関東08 | 立教大学ESD研究所 | 東京都 |
| 関東09 | NPO法人エコロジーオンライン | 栃木県 |
| 関東10 | 一般社団法人新宿ユネスコ協会 成蹊学園サステナビリティ教育研究センター | 東京都東京都 |
| 関東12 | 伊豆半島ジオパーク推進協議会・教育部会 | 静岡県 |
| 関東13 | NPO法人 環境パートナーシップちば(NPO環パちば) | 千葉県 |
| 関東14 | 多摩大学 アクティブ・ラーニング支援センター | 東京都 |
| 関東15 | 新潟市水族館マリンピア日本海 NPO法人 新宿環境活動ネット | 新潟県 東京都 |
| 関東17 | 聖心女子大学グローバル共生研究所 | 東京都 |
| 関東18 | 晃華学園中学校高等学校 | 東京都 |
| 関東19 | サンデンフォレスト(サンデンファシリティ株式会社) | 群馬県 |
| 関東20 | 一般社団法人 きりゅう市民活動推進ネットワーク キャノンエコテクノパーク | 群馬県 茨城県 |
| 関東22 | 一般社団法人 あがのがわ環境学舎 | 新潟県 |
| 関東23 | 認定NPO法人アクト川崎 | 神奈川県 |
| 関東24 | NPO法人 横浜市民アクト | 神奈川県 |
| 関東25 | 栃木県環境カウンセラー協会 | 栃木県 |
| 関東26 | 一般社団法人 新潟市ユネスコ協会 一般社団法人 自然エネルギー推進機構 | 新潟県静岡県 |
| 関東28 | ふじのくに未来財団 | 静岡県 |
| 関東29 | フォッサマグナミュージアム | 新潟県 |
| 関東30 | 一般社団法人 ESD TOKYO | 東京都 |
| 関東31 | 藤岡市ボランティアネットワークセンター ウィズ VISIONARY INSTITUTE | 群馬県 静岡県 |
| 関東33 | 特定非営利活動法人 持続可能な社会をつくる元気ネット | 東京都 |
| 関東34 | 上州ぐんまESD実践研究会 | 群馬県 |
| | | |

ESD活動支援センター (全国センター)の役割

■ ESD推進ネットワークの全国的なハブとして

ESD活動支援センター(全国センター)は、ESD推進ネットワークの全国的なハブとなり、ESD活動の支援を行います。地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)、地方ESD活動支援センター(地方センター)やESDの推進に関心を持つ全国の協力団体と協働・連携し、支援活動を展開します。全国センターは、以下の4つの「はたらき」と3つの「つなぐ」機能を果たすことでESDの広まり、深まりに貢献しています。

4つの[はたらき]

情報の収集・発信

2

ESD支援体制の整備

3

ネットワーク形成と 学び合いの促進

4

人材の育成

3つの「つなぐ」

1

環境・開発・人権・平和・防災・消費・文化などの **多様なテーマをつなぎます**。

2

ESDを推進・支援する人・組織・プログラムなどを **地域をこえてつなぎます**。

3

国連機関や海外のESD先進地域の動きなど 国際的な情報をつなぎます。

■ ESD活動支援企画運営委員会

ESD推進ネットワーク全体の活動の基本的方向の議論、 地域の実情を踏まえた総合的なESD活動支援方策の検討、 全国センターへの指導・助言を行います。

●2023年度ESD活動支援企画運営委員会委員一覧

| 飯田 貴也 | NPO法人新宿環境活動ネット 代表理事 |
|--------|-----------------------------------|
| 遠藤 理紗 | 特定非営利活動法人「環境・持続社会」研究センター 事務局次長 |
| 及川 幸彦 | 奈良教育大学 教育連携講座/ESD・SDGsセンター 准教授 |
| 柿野 成美 | 公益財団法人消費者教育支援センター 主席主任研究員 |
| 近藤 牧子 | 認定NPO法人開発教育協会 副代表理事 |
| 佐藤 真久 | 東京都市大学大学院環境情報学研究科 教授 |
| 白井 信雄 | 武蔵野大学工学部 教授 |
| 高橋 良光 | 新居浜市教育委員会 教育長 |
| 原 理史 | 中部地方ESD活動支援センター |
| 深津 学治 | グリーン購入ネットワーク 事務局長 |
| 藤本 早恵子 | 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター 教育協力部 主任 |
| | (#4.41 = b == 1 ± 07) |

(敬称略、五十音順)

各回の議論の概要と配布資料は、全国センターのウェブ サイトで公開しています。また、全ての地方センターにも 企画運営委員会または運営委員会が設置されています。

▮ ESD・気候変動教育の推進のための作業部会

地方センターの行う学びあいプロジェクトを通じて、気候変動教育のノウハウを共有し、推進の方策を検討することを目的とした作業部会を設置しています。地方センターのほか、企画運営委員の中から遠藤委員、白井委員にアドバイザーとしてご参加いただいています。

ESD活動支援センター 公式ウェブサイト

| コンセプト

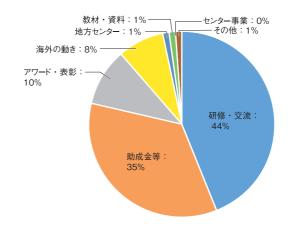
「仲間を増やすウェブサイト、仲間の力をつけるウェブサイト」を目指し、他のウェブサイトへの有効なポータル(入り口)として機能するコンテンツづくりに努めています。また、SNS等と連動して情報を一元的に発信しESDの魅力を伝える・ESD関係者を増やすツールにしたいと考えています。

┃目指している"役割"

- ① ESDを実践する方に役立つ情報の発信による、ESD の活性化
- 2 [ESD] のフレーズを用いている情報の一元化、整理、 蓄積と発信
- 3 [ESD] のフレーズを用いていないESD関連情報の 洗い出しと統合

▋情報掲載内訳

今年度も、地域ESD拠点やESD推進団体等から寄せられる多数の情報を発信し、広報・ESDの成果共有に努めました。 全国センターのウェブサイトに掲載した記事のカテゴリー 別内訳は以下のとおりです。



【相談対応

ESD活動を実践するに当たっての相談や支援依頼などを受け付けています。ネットワークの強みを活かし研修・セミナーの企画支援や講師の紹介、広報協力など様々な相談に対応しました。



ESD活動支援センター





▋後援等による事業協力

全国センター はESDの推進に 資する行事や催 事への共催・後 援・協力等を行って 名義の使用申請 は全国センター





▲後援したイベントの例

で一括して受け付けており、2023年度は45件の行催事に対して後援名義の使用を承認しました。

ESD推進ネットワーク全国フォーラム2023

気候変動を切り口としたESDの意義とひろがり ~地域における場づくり・仕組みづくり~

ESD推進ネットワーク全国フォーラム(以下「全国フォーラム」)は、毎年1回、ESDに関心のある方々が集い、ESDに関する最新の国内外の動向、ネットワーク形成の状況を共有するとともに、全国各地の実践事例を学び合うもので、ESD活動の更なる普及とより一層の活動推進を目的に開催しています。2023年は、全国ネットワーク団体意見交換会との一体開催とし、各地の学び合いプロジェクト実践団体と全国ネットワーク団体との交流を深め、新たな連携・協働のきっかけづくりを目指しました。また、地域における気候変動対策を出発点としつつ、地域課題の総合的かつ包括的な解決を目指す実践人材育成に取り組む事例を共有しました。

環境省が実施した「環境教育・ESD実践動画100選」事業の認定授与式を併せて開催したことにより、認定を受けた学校から多数の教師・生徒が参加され、年齢・所属先等が例年よりも多様化しました。会場での参加者数は昨年度を大幅に上回る145名、オンライン配信には52名の視聴申込がありました。会場ではESDに取り組む団体によるポスター展示も実施しました。

| 開催目的

- ① ESD関連施策の最新動向、ESD推進ネットワークの現状と課題を把握する。
- 2 参加者が気候変動を切り口としたESDの実践事例を共有 し、自身の団体で企画・実践を進めていくためのヒント を得る
- 3 社会変革を担う人材育成のための具体的なアクションについて議論する。
- ④ 多様な主体・地域・世代の交流を促進し、ネットワークのさらなる発展の機会とする。

| 開催概要

- ■主 催 ESD活動支援センター、文部科学省、環境省
- ■協 力 ESDを推進する全国・地方の組織団体
- 開催日時 2023年12月9日 (土) 10:30~16:00
- 会場 国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟 国際会議室

プログラム概要

(1)環境教育·ESD実践動画100選認定授与式



認定団体を代表して、学校教育部門の岡山県立邑久高等学校、社会教育部門のせいわエコクラブに朝日健太郎環境大臣政務官より認定書が授与されました。その後、両団体の動画上映と口頭での活動発表、朝日政務官と両団体とのトークセッションを行いました。

(2) 開会挨拶:朝日環境大臣政務官

(3)基調報告

①ESDの推進に向けた文部科学省の取組について

●本村 宏明さん

(文部科学省国際統括官付 国際戦略企画官)

2020~2030年におけるESDの国際的な枠組み「持続可能な開発のための教育:SDGs実現に向けて(ESD for 2030)」に基づき、ステークホルダー間のパートナーシップ・連携を促進することを目的とした「ESD for 2030グローバル・ネットワーク(ESD-Net)」が発足し、第1回会合が日本で行われる予定であること、第4期教育振興基本計画(令和5年6月閣議決定)においてESDの推進が今後の教育政策の基本方針の一つとして位置づけられたことなど、国内外のESDに関する最新動向が報告されました。また、ユネスコスクールをはじめとする学校でのESD推進の取組事例、多様な主体が参画するSDGs達成の担い手育成推進事業、国内ユネスコ活動拠点の戦略的な整備を進めるユネスコ未来共創プラットフォーム事業などが紹介されました。

②環境施策及び環境教育・ESDの最新動向について

●東岡 礼治さん

(環境省大臣官房総合政策課環境教育推進室 室長)

気候変動問題の危機的な状況を踏まえ、グリーントランスフォーメーション(GX)及び地域の脱炭素化を加速する必

要性が強調されました。また、環境教育等専門家会議における環境教育等の推進に関する基本的な方針の改定に向けた議論のポイントとして、①個人の変容と社会経済システムの変革との連動、②多様な主体同士の対話と協働、③中間支援機能を活用した協働プロセスの実践、が示され、これらの実現に向けてESD活動支援センターが中心的な役割を果たしていくことが報告されました。

(4)セッション1

「気候変動を切り口としたESDの意義とひろがり」

ゼロカーボンと気候変動適応 に関わる人材育成に取り組む主 体(学校、ユース、ビジネスセ クター)の方々にご登壇いただ き、実践事例を共有しました。



その後、ゼロカーボン社会に向けた政策と連動する教育、 気候変動対策、経済・社会の発展(気候変動と SDGs 各項 目との統合的解決)、個人の生活行動の変容から社会変容へ の参加と協働(シビックアクション)へのシフトなど、気候 変動教育の実践上の課題と工夫について議論しました。



報告

- ・藤本 早恵子さん (公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター)
- ・小林 真緒子さん (次世代ユネスコ国内委員会)
- ・平田 裕之さん (一般社団法人地球温暖化防止全国ネット)
- ・東岡 礼治さん (環境省環境教育推進室)

モデレーター

・白井 信雄さん (武蔵野大学工学部サステナビリティ学科)

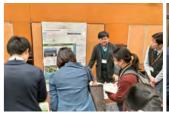
(5)セッション2

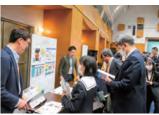
セッション 2 は、地方センター及び全国ネットワーク 団体がそれぞれの取組内容を紹介するポスターを掲示した ブースを出展し、参加者は自分が関心のあるブースを訪れ て出展者の話を聞いたり意見・情報交換を行ったりするポスターセッション形式で実施しました。セッションの冒頭には、各団体 3 分間で活動内容の概要、特徴などを話してもらうアピールタイム(ピッチ)を設けました。

ピッチ①:

「ESD for 2030学びあいプロジェクト実践事例の共有」

全国 8 カ所の地方センターが、今年度実施した「ESD for 2030 学びあいプロジェクト」の概要、成果、今後の展望などを紹介しました。





ピッチ②

「ESD 全国ネットワーク団体の実践事例の共有」

全国規模のネットワークを有し組織的に ESD に取り組む 6つの団体が、気候変動問題に関連する団体の取組について紹介しました。

出展団体(順不同)

- ·認定NPO法人開発教育協会
- ·公益財団法人五井平和財団
- ・国立環境研究所 気候変動適応センター
- ・公益財団法人消費者教育支援センター
- ·全国小中学校環境教育研究会
- ・一般社団法人地球温暖化防止全国ネット





(6)全体総括「ESD・気候変動教育の主流化に向けて」

プログラム全体を振り返り、今後のESD推進ネットワークの方向性について、①気候変動教育の主流化(学校や市民団体や行政の各組織の中でESDや気候変動教育をどのように進めていくか)、②拠点・ネットワークの拡充(それぞれのセクターで進めているものを連携できるか)、③推進体制(しくみづくり)(各拠点でのネットワークづくり・連携・





協働をサポートしていけるのか)、について必要なアクション、留意すべきポイントについて議論しました。

コメンテーター

- ・石丸 哲史さん (福岡教育大学 副学長)
- ・高田 研さん (一般社団法人地球温暖化防止全国ネット 理事長)
- ・小林 真緒子さん (次世代ユネスコ国内委員会 委員長; セッション1 登壇者)
- ・矢口 輝美さん (流山防災まちづくりプロジェクト 代表; セッション2 出展者)

進行

・飯田 貴也さん (NPO法人新宿環境活動ネット 代表理事)

(7)閉会挨拶

●関連企画「ポスター展示」

会場において、地域 ESD推進拠点、環境教育・ ESD実践動画100選認定 団体などの取組を紹介す るポスター展示を行い、 8団体が出展し、参加者 と意見交換を行いました。



出展団体(順不同)

- ・三ツ星エコクラブ(こどもエコクラブ)
- ・公益財団法人キープ協会
- ・富士見幼稚園
- ・大阪市 せいわエコクラブ
- ・岡山県立邑久高等学校
- ・公益財団法人大阪YMCA YMCA阿南国際海洋センター
- ・島根県立しまね海洋館アクアス
- ・特定非営利活動法人持続可能な開発のための 教育推進会議(ESD-J)

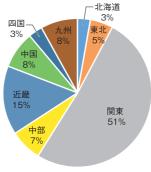
●参加者の所属

学校をはじめとする教育関係機関の参加者が例年より大幅に増加しました。公益法人・NPOからも多くの方が参加しています。



●参加者の居住地域

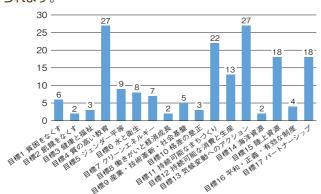
関東からの参加者が過半 数を占めていますが、動画 100選の認定団体が遠方か らも多数参加されました。



●アンケート結果(回答者53名)

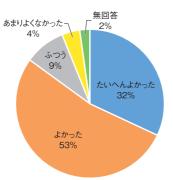
・SDGsへの取組状況(複数回答)

SDGs4(教育)、SDGs13(気候変動)が最も多くなりました。フォーラムのテーマに気候変動を掲げていることから、日頃からそこに取り組む団体から多くの参加があったと考えられます。



・フォーラム全体の評価

参加者から高い評価を 得ています。特に出展された団体から「自分たちの 教育コンテンツを現場の 人たちに見てもらうよい 機会になった」という声を いただきました。一方、 もっと参加者が能動的に アクションを取れる時間が



あるとよい、というご指摘もありました。いただいたご意見 を、来年度以降の企画の参考にしてまいります。

・ネットワークが役立っている点

情報発信や、地方センターが開催するイベント、教材・ 資料等の情報提供という意見が多く寄せられました。情報 発信や知見の提供という部分でネットワークの有用性が認知 されつつあります。



ESD for 2030学びあいプロジェクト

2021年5月に策定された第2期ESD国内実施計画に位置付けられた「テーマ別の学びあいの仕組み」である「ESD for 2030学びあいプロジェクト」。今年度は、全国8カ所の地方センターが気候変動を切り口としてテーマを設定、活動を展開しました。各センターのプロジェクトの概要をご紹介します。

●北海道センター

「札幌市円山動物園×気候変動教育プロジェクト」

動物園での気候変動を切り口とするESDの開発・実践の可能性について、札幌市の円山動物園をフィールドにして関係者による連続ワークショップを開催して検討しました。



気候変動教育拠点としてのさまざまな可能性が見出され、 実践に向けた企業や市民の協力体制や共同実践に向けた関係者・コアメンバーのネットワークが形成されつつあります。

●東北センター「ローカル課題から考える気候変動教育」

青森市の小学校を舞台に、気候変動によって地域に生じている様々な課題を学び、自分事として捉え、行動に移すことができる「持続可能な社会の創り手」を育成す



るためのモデルプログラムづくりを行いました。地域の課題を取り上げることにより、地元の多様なセクターとの連携が図られネットワークの拡充につながりました。

●関東センター「気候変動じぶんごと化プロジェクト」

昨年度実施した「気候変動に適応した実践型防災教育」のプログラムを多様な社会課題とつなげ、緩和策と適応策の統合的なアプローチにより、 じぶんごと化するプログラムの開発、



モデル実施を3つの地域ESD拠点及び千葉県佐倉市の4カ 所で行いました。各地域の気象台、地球温暖化防止センター、 気候変動適応センターなどとの地域内連携が進んでいます。

●中部センター

「地域づくりのためのSDGs・気候変動社会教育」

ローカルSDGsのための ESDの社会実装を目指し、 気候変動を切り口とした、 地域の状況やニーズに応じ たテーマを定めた学びあい



の機会を提供しました。集大成として制作した[ESD学び

合いの場づくりワークブック」を活用することで、新たな 教育現場の創出、教育現場における実践拡大、学習者の増 加が期待されます。

●近畿センター「事例から学ぶESD~学校と地域の連携~」

学校と地域の連携事例について 学び、学校と地域の「壁」を乗り越 えるための手立てなどを考え見出 すことを目的として、事例紹介と 意見交換を中心とした勉強会を5



回開催しました。セクター間での事例の共有を通して学校現場に対する理解が進み連携の機運が高まっています。また、 気候変動教育実践の必要性が各セクターに浸透し始めました。

●中国センター

「北栄町脱炭素ロードブック制作プロジェクト」

脱炭素地域づくりの担い手育成や各主体の取組に対する町民の理解を促進することを目的として、脱炭素地域づくりのプロセスを可視化する冊子の制作を行いました。



公民館の断熱DIYワークショップや地域新電力会社などの取組の取材活動や情報発信を通して、2050年に向けた脱炭素ロードマップの実践と学びがまち全体に広がりました。

●四国センター「四国ESDバーチャル大学」

多彩なテーマでの「四国ESD バーチャル大学」開催により、意 見交換・マッチング等の機会を創 出しつつ学びや実践のアーカイブ づくりを行いました。多様な主体



との連携によってさまざまな分野の学びを気候変動教育と 結びつけることができ、それぞれの特色を生かした気候変 動教育、ESDプログラムづくりの素地が作られました。

●九州センター

「気候変動教育推進に向けた環境学習施設ネットワーク形成」

自治体等が設置する環境 学習施設における気候変動 教育の推進に向けて、取組 に関する情報交換、ノウハ ウ共有を行いました。そこ



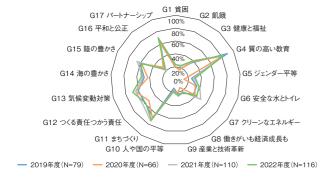
で明らかになった企業等との連携や人材育成に関する課題、 専門家や専門的な拠点との連携ニーズを踏まえ、来年度以 降ネットワークの拡充に向けた具体的な取組を企画、実践 していきます。

地域ESD推進拠点年次アンケート結果

ESD活動支援センターでは毎年、ESD推進ネットワークの 現状を把握し今後の事業計画に反映することにより、ネット ワークの価値を高めることを目的として、地域ESD推進拠点 のアンケート調査を行っています。地域拠点が実施している ESD関連の支援について、調査結果の概要を報告します。

● 「持続可能な開発目標 (SDGs)」との関連 (2019~2022年度の推移)

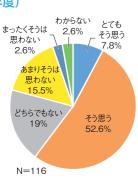
グラフは、17の各目標に関連する活動を実施している拠点の割合を示しています。教育(SDGs4)、住み続けられるまちづくり(SDGs11)、パートナーシップ(SDGs17)が過去4年間にわたり上位を占めています。気候変動(SDGs13)も60%前後と高い数値で推移しており、特に2022年度は5%上昇し68%に達しました。問題の緊急度が高まっていることを表していると考えられます。

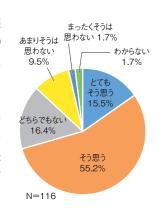


●ESDの普及・理解促進(2022年度)

①「近隣地域でのESDの認知度が高まり、理解が進んでいると思うか」という質問では、右図のような結果となりました。ESDが近隣地域にも普及しつつあるという手ごたえを感じている拠点が昨年度から大きく増加し、「とてもそう思う」、「そう思う」を合わせて6割を超えました。

②「近隣地域において地域課題解決の取組や教育・学びにESDが取り入れられている例が増えていると思うか」という質問では、右図の結果となりました。「とてもそう思う」、「そう思う」が合わせて71%と、肯定的な回答が多くなっています。地域課題解決の実践的な手法としてESDが活用されていると考えられます。

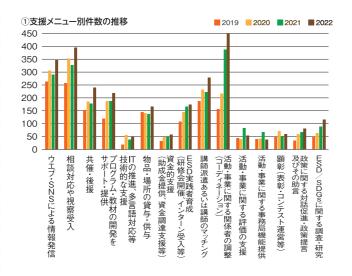




●地域ESD拠点が実施した支援のメニュー別件数 (2019~2022年度の推移)

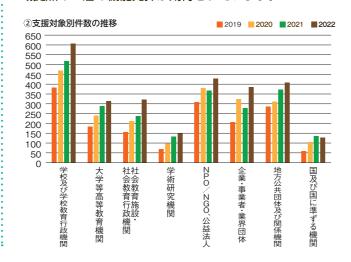
下図は、地域拠点が実施しているESD関連の支援のメニュー別件数の推移を示したものです(年度によって回答数が異なるため、2022年度の回答数(n=116)に合わせて数値を補正しています。以下同じ)。

「活動・事業に関する関係者の調整(コーディネーション)」が最も多く、伸び率が高かった2021年度から更に伸ばしています。情報発信・視察受け入れがそれに続いています。他のメニューもそれぞれ増加傾向にあり、地域拠点による支援が広がっているといえます。



●地域ESD拠点が支援した対象別の件数 (2019~2022年度の推移)

地域拠点が支援を行った対象別の件数の推移は下図の通りです。どの支援先も増加傾向にあります。学校関係への支援は件数も多く、順調に伸びていますが、教員の負担を軽減し学校におけるESDの取組を推進していくために、地域拠点の一層の機能発揮が期待されています。



地方ESD活動支援センター(地方センター)連絡先

北海道地方 ESD活動支援センター

東北地方 ESD活動支援センター

関東地方 ESD活動支援センター

中部地方 ESD活動支援センター

近畿地方 ESD活動支援センター

中国地方 ESD活動支援センター

四国地方 ESD活動支援センター

性所 〒760-0023 香川県高松市寿町2-1-1 高松第一生命ビル新館3階 TEL 087(823)7181 **E-mail** info@shikoku-esdcenter.jp 担当都道府県 徳島、香川、愛媛、高知

九州地方 ESD活動支援センター

ESD活動支援センター(全国センター)連絡先等

連絡先

(住) 所 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山 地下1階

アクセス



- 東京メトロ 銀座線・千代田線・半蔵門線「表参道駅」 B2出口から徒歩約10分
- JR・東急東横線・京王井の頭線・東京メトロ副都心線 「渋谷駅」東口(宮益坂口)から徒歩約12分
- 都営バス(渋88系統)「青山学院前」停留所から 徒歩約2分
- ★青山通りから国際連合大学とオーバルビルの間の道を 入り、東京ウィメンズプラザの前のエスカレーターで 地下1階までお越しください。

